

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年5月27日

Lancet:

油断してはいけない：ヨーロッパにおける新型コロナ対策は全く不十分

## 【松崎雑感】

ロシアの研究者も含むヨーロッパの研究者の共同論説です。

ハッキリ言って、「コロナは終わった。2019年前と同じでタラタラやろう」という各国政府の姿勢に対する批判論説です。日本でも、CDCジャパンを作るという報道がありました。が、できるわけないでしょう。この3年半は悪夢で、今は悪夢が終わってやれやれ、というステージです。このままでは、新興感染症が発生しても、再びドタバタとなるでしょう。5万円という高価格だが臨床的エビデンスのない「国産抗コロナ薬」が認可されたというあきれた現状をみると、とても暗い気持ちになります。ヨーロッパだけでなく日本も同様に次のパンデミックは「裸」で対応することになりそうです。

## 油断してはいけない：ヨーロッパにおける新型コロナ対策は全く不十分

Flahault A, Calmy A, Costagliola D, et al. **No time for complacency on COVID-19 in Europe** [published online ahead of print, 2023 May 22]. **Lancet**. 2023;S0140-6736(23)01012-7. doi:10.1016/S0140-6736(23)01012-7

世界的には新型コロナの緊急事態ステージが終了したとされているが、ヨーロッパでは引き続き感染流行がやまず、新しいオミクロン変異株も発生している。インフルエンザなど他の呼吸器感染症とは違い、夏と言われる期間に流行が続いている。

検査数が激減したため、現在の流行の規模は予測不可能である。2022年春からの流行でヨーロッパの医療ケアシステムに過剰な負荷がかかり、2022年冬には感染防止対策の強化が必要となった。現在まで超過死亡の増加は高レベルで続いている。

ヨーロッパでは2022年に新型コロナにより467,921名が死亡したと発表されている。病弱で基礎疾患のある人々は引き続き新型コロナ重症化リスクにさらされている。ロングコナは感染者の3～20%に発生しているとみられる。

感染対策が緩和されて以降、新型コロナやインフルエンザなどによるヨーロッパの労働者の病欠日数が増え、経済に悪影響が出ている。

現在の感染状況を大きく減らす対策の実行なしには、来年以降も新型コロナによる保健的経済的悪影響は続くだろう。これらのウイルス感染症を封じ込めるための対策はやろうと思えば簡単に実施できるはずだ。

われわれは、ヨーロッパの諸政府がなぜ新型コロナ対策の強化が政治的社会的に不要だと考えているのか疑問に思う。

新型コロナを封じ込める戦略的な対策と投資を行うことにより、将来の呼吸器病原体によるパンデミックに適切に対応できるようになるだろう。

ヨーロッパにおける新型コロナ対策は、公衆衛生的対策だけにとどまらない。政府は、どのような非薬物的感染防止対策を何時実施するかを慎重に判断すべきである。

また、PCRで早期診断しなければ、発病から2～3日以内に抗ウイルス薬を投与することはできないのに、PCRの無料検査は全廃されている。これは特に基礎疾患のある感染に弱い人々の命を左右する問題である。

PCRができなくとも抗原検査があればよいと思われるかもしれないが、生産量が激減しており自由に入手できなくなっている。多くの高齢の人々が二価ワクチンを接種し、自然感染免疫を保有するに至っているため、感染しても軽症で済むことが多くなっている。その結果、パンデミックの最初の1年半と比較して、入院率と死亡率は大きく減っている。しかし、感染力の高いオミクロン派生株が新たに生まれ、感染者の絶対数は増加しており、死亡者の絶対数も増加している。

公衆衛生分野では、呼吸器系ウイルスを最もよくコントロールできる非薬物的感染防止対策の軽視が著明である。ヨーロッパでは、感染リスクの高い高齢者施設でさえ、非薬物的感染防止対策が、形だけのものとなっていた。

換気を積極的に行い室内の空気を清浄化することが、費用効果が高く、感染リスクを大きく減らすことが分かっている。高齢あるいは基礎疾患のある人々に対する呼吸器ウイルスの感染を早期発見し、必要な治療を行うことが重要である。これらの人々に効果の高い治療を行うために、抗ウイルス薬の種類、投与量、投与期間の研究が必要である。

すでにスイスとフランスでOptimisation of Antiviral Therapy in Immunocompromised COVID-19 Patients (OPTICOV)と言うトライアルが実行中である。すでに多くのヨーロッパ諸国が新型コロナのサーベイランスを中止している。市中および医療機関における新型コロナサーベイランスと遺伝子解析はもはや行われていない。これらの対策を再開することが喫緊の課題である。コロナパンデミックの教訓を踏まえて、ヨーロッパにおいても包括的で創造的な呼吸器系ウイルスのサーベイランスシステムを構築することが必要だ。とりわけ呼吸器系ウイルスの下水サーベイランス、臨床症状サーベイランスを含め、次のパンデミックへの備えを一新することが必要である。

ヨーロッパにおける新型コロナ対策は、まだ極めて不十分である。ヨーロッパでは、政府の保健当局、大学などの研究機関、そして一般市民が共同して、呼吸器感染症の影響を防ぐ活動が必要である。

各国の政府は、感染に弱い人々を守るために、医療施設と介護施設の換気を徹底的に実行するための対策に資金を出すべきである。さらに感染症の現状をリアルタイムでつかむためのサーベイランス体制を再構築すべきである。

これらにとどまらず、長期的対策、すなわち新たな感染症パンデミックを防ぐためのプラン、医療システムの強化、リスクコミュニケーションの改善、地域社会の参加、医療分野と地域社会分野で予想される担い手不足を見越した人材養成が必要である。

繰り返すが、来るべきパンデミックに備えて医療崩壊、社会システム崩壊が起きないように今から様々な対策を始める必要がある。今これを実行しなければ、将来必ず起こるはずの感染症パンデミックがもたらす被害を減らすことはできない。